

日中語の授受補助動詞構文の対照¹

—恩恵性を中心に—

A Contrastive Study of Benefactive Auxiliary Verb Constructions in Japanese and Chinese —Focusing on Beneficiency—

趙 蓉 俊 子

ZHAO Rongjunzi

This article provides a contrastive analysis of benefactive auxiliary verb constructions in Japanese and Chinese. The investigation shows the differences in the syntactic and semantic features between the *Vte-kureru*, *Vte-ageru*, and *Vte-morau* constructions in Japanese and the *V-gei* construction in Chinese. Although previous studies have focused on the perspectives of voice or other-benefactive sentences, the differences between Japanese and Chinese, especially in self-benefactive sentences that bring positive outcomes to the subject, have remain unexplored. This article examines the syntactic aspects of Japanese and Chinese benefactive auxiliary verb constructions, such as person restriction in subjects and the obligatoriness of indirect objects. It further explores semantic features such as the volitionality of the giver, intentionality of the giver, and predictability of the action. Additionally, it is argued that Japanese and Chinese greatly differ in the expressions of other-benefactive, malfactive, and self-benefactive constructions in the intentionality and causativity of the giver.

キーワード： 授受補助動詞構文、恩恵性、授与者の意図性、自己恩恵

Keywords: Benefactive auxiliary verb constructions, Beneficiency, Volitionality of giver, Self-benefactive

0 はじめに

授受補助動詞とは、「くれる」「あげる(やる)²」「もらう」という動詞が、前項動詞 V_1 の「テ

¹ 本稿は Prosody and Grammar Festa 6 (2022 年 1 月) における筆者の口頭発表の内容と趙蓉俊子 (2020b) を加筆修正したものに基づいている。

² 「やる」と「あげる」の使い分けに関しては、森本 (1996: 135) では、社会的な序列関係で、下になる相手に向かって使われる、つまり親から子供、兄から弟、人間以外の動物、植物に使われる「や

形」に後接し、恩恵の授受を表す場合が多いものものを指す。日本語の授受補助動詞構文は、「動詞のテ形+授受補助動詞」という形式を含む構文である。

- (1) お母さんがサンドイッチを作ってくれた。 (『ボクらは旅に出る』)
- (2) 欲しい物なら何でも買ってあげる。
- (3) 赤い実は、5月くらいに皮をむいて取り出したタネを水洗いし、まいてやるとよく芽が出ます。 (『趣味の園芸(NHKテレビ放送テキスト)』)
- (4) 相手に好きになってらうには、自分のことを知ってらうことから始めよう。 (『My Birthday』)

例文 (1)-(4) では、 V_1 のテ形「作って」「買って」「まいて」「なっ」「知って」は補助動詞「くれる」「あげる(やる)」「もらう」とつながり、授受補助動詞構文を構成し、それぞれVてくれる構文、Vてあげる(やる)構文とVてもらう構文と呼び分ける。

中国語の授受補助動詞構文は、「動詞+補助動詞」という形で表す。例えば、例文 (5)(6)のように、授受補助動詞“给”「与える」が V_1 “寄”「出す”、“借”「貸す」に後接して構成する。(中国語の“给”は、方向性³において中立的な授与動詞であるため、グロスには便宜的に「与える」を付する)。

る」が、最近はあまり使われなくなり、その代わりに「あげる」を広く使う傾向が見られると述べている。例えば、「a.近所の子どもにお菓子を(やる・あげる)。b.息子にお菓子を(やる・あげる)。c.犬に餌を(やる・あげる)。d.花に水を(やる・あげる)。」の場合、規範的にはaが「あげる」、b~dが「やる」であろうが、実際には、a~dの全てで「あげる」を使う人も相当存在すると指摘している。さらに、山本 (2003: 275) では、「てやる」は話し手の側が恩恵を与えることを表すものであり、相対的に話し手が被授与者であるである聞き手より上の立場になってしまうことから、「恩着せがましい」「威張っている」という印象を聞き手に与える可能性があるとして指摘し、例えば、下の例のように親子や兄弟のように年齢などによる絶対的な上下の差がある間柄では無理なく自然に使えるが、一般的には用いにくいと述べている。

- 子：お母さん、これできないー
母：それ？(お母さんが)やっ**て**あげるよ。

そこで、本稿では、「やる」のデータも扱うが、表記上の煩雑さを避けるため、表記は「あげる(やる)」で代表させる。授受補助動詞「くれる」の尊敬語「くださる」、「あげる(やる)」の謙譲語「さしあげる」、「もらう」の謙譲語「いただく」は考察の対象としない。

³ 日本語の方向性に関して日高 (2007: 4-5) では、「やる」「あげる」「さしあげる」は、話し手から他者への授受の表現には使用可能だが、他者から話し手への授受の表現には使用できない。「くれる」「くださる」と「もらう」「いただく」は、逆に、他者から話し手への授受の表現には使用可能だが、話し手から他者への授受の表現には使用できない。こうした話し手を基準にした行為の方向性をここでは「人称的方向性」と呼び、話し手から他者への授与を「遠心的方向」の授与、他者から話し手への授与を「求心的方向」の授与と呼ぶ(ここでの「話し手」とは、話し手自身、あるいは話し手が「他者」に対して「話し手寄り」と捉えている人物を指すものとする)と述べている。

(5) 我 寄-给 小张 一点儿 东西。
 (1SG 出す-与える 張さん 少し 品物)
 「私は張さんに品物を送ってあげた」

(6) 他 借-给 我 钱。
 (3SG 借りる-与える 1SG お金)
 「彼は私にお金を貸してくれた」

本稿では、例文 (7)(8) の“送给”“贈ってあげる”、“買ってあげる”のように、「動詞-補助動詞」という形式を用い、前の動詞は本動詞で、後ろの動詞は補助動詞である構文を授受補助動詞構文と定義し、「～して」の部分の前項動詞、「あげる(やる)」、「くれる」、「もらう」を補助動詞としている。

(7) 他 送-给 小王 一 份 礼物。
 (3SG 贈る-与える 王さん 一 CL プレゼント)
 「彼が王さんにプレゼントを贈った」

(8) 太郎が花子にプレゼントを買ってあげた。

本稿では日中語の授受補助動詞構文の種類を明らかにしたうえで、構文的・意味的な観点から、日中両言語の授受補助動詞構文の相違点を考察する。なお、恩恵性をめぐって、日本語の授受補助動詞構文の特徴とさらに対応する中国語の表現形式を明らかにする。

本稿は以下のように構成され、まず1節では、日中語の授受補助動詞構文に関する先行研究と問題点を概観する。そして、2節では日中語の授受補助動詞構文の分類に焦点を定める。さらに3節では、日中語の授受補助動詞構文の文法的な特徴と用法に着目し、4節では日中語の授受補助動詞構文の恩恵性とさらに対応する中国語の表現形式を明らかにする。最後に、5節において日中両言語の授受補助動詞構文を対照することで、本稿の内容をまとめる。

1 授受補助動詞構文に関する先行研究と問題点

本節では、日本語と中国語の授受補助動詞構文に関する先行研究を概観する。

(i) 日本語の授受補助動詞構文に関する先行研究

日本語の授受補助動詞構文に関する先行研究は、主に項の格やヴォイスの特徴という構文的な観点、恩恵性という意味的な観点を巡って議論されてきた。例えば、山田 (2004)、益岡 (2017)、山本 (2003)、早津 (2019) などがある。

まず、構文的な観点に関して山田 (2004: 29-31) によれば、直接ベネファクティブ⁴(直接構造)とは、事態に含まれる動詞の項が受益者となる文であり(例えば、「田中は私に本を売ってくれた」)、間接ベネファクティブ(間接構造)とは、事態の直接的な参与者ではない者が受益者となる文であるとされる(例えば、「田中は私のために走ってくれた」)。

次に、恩恵性に関して益岡 (2013: 27-28) では、以下の例文 (9)(10) のように、V てくれる構文は当該の事態が話し手によって恩恵的・利益的なものであるという評価を表すと主張している。なお、益岡 (2013: 34) では、授受動詞「アゲル(ヤル)・クレル・モラウ」に備わっている恩恵性が恩恵構文に受け継がれる」と述べている。さらに、益岡 (2017: 84) によれば、例文 (11) の事態が当事者にとって恩恵をもたらすものであるとしている。例文 (12) は当該の事態が当事者にとって好ましいものとして受け取る(益岡 2001: 30)。

- (9) 打撃では、追い込まれたカウントで相手の決め球をよく狙う。「強いところを叩けば相手はもっと混乱してくれる」からだと言う。 (益岡 2013: 27 例(11))
- (10) ようやく涼しくなってくれた。 (益岡 2013: 28 例(12))
- (11) 野菜が値下がりしてくれた。 (益岡 2017: 82 例(7))
- (12) 雨が降ってくれた。 (益岡 2001: 30)

また、山本 (2003) によれば、授受補助動詞構文には「恩恵的用法」、「非恩恵的用法」などの用法があることが分かった。さらに、「恩恵的用法」に関して山本 (2003: 274) では、V てくれる構文は恩恵を受動的に受け取ることを表し、V てもらう構文は依頼的な受け取りを表すと述べている。「非恩恵的用法」に関して山本 (2003: 277) では、以下の例文 (13)(14)(15) のように、マイナスの評価を伝えることから「皮肉」となっていると指摘している。本稿の 5 節では、山本 (2003) の観点を踏まえて授受補助動詞構文の恩恵性を検討する。

- (13) いいところで発言してくれたよね。 (山本 2003: 277 例文 (24))
- (14) いいことしてもらってよかったね。 (山本 2003: 277 例文 (25) 下線は筆者による)

⁴ 山田 (2004: 2) によれば、動詞に後接するテヤル、テクレル、テモラウ等の補助動詞形式、及びその待遇的バリエーションをベネファクティブ(benefactive)と総称する。

(15) せっかくかわいがってあげようと思ったのに。

(山本 2003: 277 例文 (26) 下線は筆者による)

最後に、構文と意味から、早津 (2017: 14) によれば、「シテヤル文・シテクレル文」は動作主体である主語から他者へ恩恵を与えることを表し、「シテモラウ文」は動作主体ではない主語が話し手以外の他者から恩恵を受けることを表す。なお、早津 (2019) では、主語と補語のどちらが動作主体か、主語と補語のどちらが恩恵の与え手でどちらが受け手かという点から、授受補助動詞文と使役文によって表現される恩恵授与性⁵を記述している。本稿の2節と3.1節では、早津 (2017)(2019) に基づき、日本語の授受補助動詞構文の文法的な特徴を明らかにする。

問題点として、早津 (2019: 4) では、「授受文は、人がある動作をする事が他者にとって恩恵や利益となる事態を表現する文であり、人がある動作をすることがその人自身にとって恩恵や利益になるような事態を授受文で表現することはできない」と指摘している。しかしながら、以下の例文 (16) の授受補助動詞構文は授与者の動作が自分自身にとって好ましい変化をもたらすものである。本稿の第5.3節では、このような自己恩恵を表す授受補助動詞構文を明らかにする。

(16) 肩を温めてあげると痛みが和らぐ。

(ii) 中国語の授受補助動詞構文に関する先行研究

中国語の授受補助動詞“V 给”構文の構造について、主に2つに分けられる。1つは、“给”が前置詞となり、 V_1 の後ろに後置するというような形である。例えば、張国憲 (2005) では、“他送给我一瓶好酒”「彼は私に一本の上等の酒を送ってくれた」は“他送一瓶好酒给我”「彼は一本の上等の酒を送って、私に与える」から“给我”が前移して生まれたもので指摘している。もう1つは、“V 给”を1つのまとまりとして目的語がつく。例えば、興水・島田 (2009: 110) では、“V 给”構文の“给”は、前置された動詞の補語ではなく、複合動詞とみなすと述べている。丸尾 (2010: 163) では、“V 给”の形は複合動詞として扱われると指摘している。なお、邵敬敏 (2009: 4) によれば、“V 给”構文の V_1 と“给”の間に“了 1”を介入するかどうかにより、 V_1 と“给”は1つのまとまり或いは2つの動作を決められる。興水・島田 (2009) や邵敬敏 (2009) などの観点から、本稿は、“V 给”を1つのまとまりとして授受補助動詞構文を構成する。

⁵ 早津 (2019: 8) では、3種の授受文の主語の恩恵授受性については、「V-テヤル文とV-テクレル文は主語が恩恵の与え手、V-テモラウ文は主語が恩恵の受け手であり、これは授受文の文法的な性質である」と指摘している。

なお、杉村 (2007) は主に授与補助動詞“V 给”構文のV₁を5つのタイプに分け、それぞれは「GIVE 型動詞」、「KICK 型動詞」、「MAKE 型動詞」、「TAKE 型動詞」と「MAIL 型動詞」⁶である。意味の観点から、盧濤 (2000: 63) では、“张三送给李四一本书”「張三は李四に本を1冊やった」における“给”が導く「李四」は受益者ではなく、受け手であることを示している。本稿では、「李四」を被授与者と呼ぶ。

(iii) 日本語と中国語の授受補助動詞構文の対照に関する先行研究

日中語の授受補助動詞構文に関する先行研究には、井上 (2011)、澤田 (2014)、朱茜 (2020)、趙蓉俊子 (2020b) などがある。

井上 (2011: 40) では、「中国語には、「请」のほか、「X 让(讓)YV」(XがYにVさせる)、「X 劝(勸)YV」(XがYにVするよう勧める)、「X 帮(幫)YV」(XがYがVすることを助ける)など、他者に動作をさせることを表す動詞はあるが、他者の動作により利益を受けることを表す動詞はない。そのため、中国語には「V てもらおう」に直接対応する表現は存在しない。依頼の意味のない受益文を中国語に訳す場合は、能動文、あるいは「受ける+動作を表す名詞」の形の迂言的受動表現を用いる」と述べている。

(17) a. 私は先生に作文をほめてもらった。

b. 老师 表扬 了 我 的 作文。
(先生 褒める 了 1 1SG GEN 作文)
「先生が私の作文をほめてくださった」

c. 我 的 作文 受到 了 老师 的 表扬。
(1SG GEN 作文 受ける 了 1 先生 GEN 称赞)
「私の作文が先生にほめられた」

(井上 2011: 40 例文 (9) グロス是一部改変)

なお、朱茜 (2020: 169) では、「敬語形式を含めて日本語には7種類の授受補助動詞型複雑述語があることに対し、中国語には“V-给”しかない」と指摘している。趙蓉俊子 (2020b) では、日本語の授受補助動詞構文は非恩恵、恩恵や自己恩恵という3つの意味用法を検討したが、形式上の相違点ははっきりしていなかった。本稿では、日本語の授受補助動詞構

⁶ 杉村 (2007: 69-83) によれば、本来[+与]である GIVE 型動詞には“送”「贈る」“还”「返す」“交”「手渡す」“付”「払う」“借”「貸す」などがあり、[-与]である KICK 型動詞は“扔”「ほうる」“甩”「振る」“投”「投げる」“丢”「落とす」である。なお、MAKE 型動詞は“刻”「彫る」“缝”「縫う」“盖”「建てる」“写”「書く」などである。TAKE 型動詞は“买”「買う」“要”「要る」“领”「もらう」“拿”「獲得する」などである。MAIL 型動詞は“打电话”「電話をする」“写信”「手紙を書く」などである。

文の形式上の相違点を明らかにした上で、井上 (2011)、朱茜 (2020)、趙蓉俊子 (2020b) を踏まえて、日本語の授受補助動詞構文に対応する中国語の表現形式を検討する。

澤田 (2014) は、日本語の授与動詞構文「V+てくれる/てやる(てあげる)」を物の授与性、主語名詞句の恩恵を施す意図、前項動詞のクラスや授与動詞が取る項の数という4つの基準で分類した上で、中国語の授与動詞構文“V 给”を対照した。

問題点として、管見の限り、日中語の授与補助動詞構文を論じられている先行研究が多く、日中語の受納補助動詞構文⁷の相違点を明示的に指摘した研究は少ない。よって、日中語の授受補助動詞に関する体系的な研究についてまだ検討する余地がある。そこで、本稿では、日中語の授受補助動詞構文の文法的特徴、用法及び恩恵性という点に踏み込んで、日本語と中国語の授受補助動詞構文の相違点を明らかにする。

2 日中語の授受補助動詞構文の分類と形式

本節では日中語の授受補助動詞構文の分類と形式を検討する。本稿では、授受する出来事や物を授受対象と呼び、授受対象を与える側が授与者、授受対象を受ける側が被授与者と定義する。さらに、分類基準は授受補助動詞構文の主語に立つのは恩恵行為の授与者であるか被授与者であるかによるものである。すなわち、授与補助動詞構文は主語の位置に立つのが恩恵の授与者であり、日本語のVてくれる構文、Vてあげる(やる)構文と中国語の“V 给”構文が属する。受納補助動詞構文は主語の位置に立つのが恩恵の被授与者であり、Vてもらう構文と“请・叫・让”構文が当てはまる。

例えば、例文 (18) のVてくれる構文では、主語の位置に立つのは恩恵の授与者(彼女)であり、物の被授与者である話し手は「一冊の本」を貸すという恩恵の被授与者でもある。例文 (19) のVてあげる(やる)構文は、主語に立つ授与者(母)が被授与者(弟)に対する恩恵授与を表す授与補助動詞構文である。さらに、例文 (20) の“V 给”構文では、主語に立つのは授与者“小王”「王さん」である。また、例文 (21) のVてもらう構文は、被授与者(彼)が主語に立ち、授与者である(妹)が間接目的語⁸の位置にある。中国語には、受納補助動詞がないが、例文 (22) の“请・叫・让”構文は相当する。が、例文 (22) では被授与者が主語「私」の場合とそうではない場合がある。例えば、「私は母のためにお医者さんに診

⁷ 本稿において「授与」と「受納」という用語は城田 (1998) に従う。城田 (1998: 192) によれば、「授与とは主語(ガ格)に立つ与え手が授受対象を非ガ格補語に立つ受け手に移すことを言う。「あげる(やる)」はこのことにおいて共通し、共に授与動詞である。受納とは非ガ格補語に立つ与え手が主語(ガ格)に立つ受け手に授受対象を移すことをいう。モラウはそれを表し、受納動詞と呼ばれる」と指摘している。なお、日高 (2007: 3) も同じ用語を引用した。

⁸ 亀井他 (1996: 1339) では、「授与の行動は、与えられる物とその物を与えられる相手の2つを表わす2つの目的語が必要とされる。この場合、与えられる物を表わす語を直接目的語(direct object)といい、与えられる相手を表わす語を間接目的語(indirect object)という」と示している。

察してもらった」の場合でも例文 (22) は成立する。即ち“请・叫・让”構文の被授与者は主語の場合と主語に近い人間の場合がある。

A. 授与補助動詞構文:

- (18) 彼女が一冊の本を貸してくれた。
 (19) 母は弟にケーキを焼いてあげたらしい。
 (20) 小王 送-给 小李 一 本 书。
 (王さん 贈る-与える 李さん 一 CL 本)
 「王さんは李さんに一冊の本を贈ってあげた」

B. 受納補助動詞構文:

- (21) 彼は妹に代わりに行ってもらった。
 (22) 我 {请・叫・让} 医生 来 看 病。
 (1SG CAUS お医者さん 来る 見る 病気)
 「私はお医者さんに診察してもらった」

本節の内容を[表 1]でまとめる。[表 1]は日中語の授受補助動詞構文の分類と形式を示すものである。

[表 1] 日中語の授受補助動詞構文の分類と形式

構文の種類		主語	間接目的語
授与補助動詞構文	V てあげる(やる)構文	授与者	被授与者
	V てくれる構文	授与者	被授与者
	“V 给” 構文	授与者	被授与者
受納補助動詞構文	V てもらう構文	被授与者	授与者
	“请・叫・让” 構文	被授与者	授与者

3 日中語の授受補助動詞構文の文法的特徴と用法

本節では、日中語の授受補助動詞構文の文法的特徴や用法の相違点を考察する。

3.1 日中語の授受補助動詞構文の文法的特徴

本節では、日中語の授受補助動詞構文の文法的特徴を議論し、主に人称制限、間接目的語が必須であるかどうかをめぐって日中語の相違点を見出す。

第1に、日中語の授受補助動詞構文の人称制限を論じる。まず、Vてあげる(やる)構文は、例文(23)のように、主語が3人称の場合、成立しない。また、Vてくれる構文は、例文(24)で示すように、主語が1人称の場合、成り立たない。最後に、Vてもらふ構文は、例文(25)のように、間接目的語が1人称の場合は、成立しない。

- (23) * 太郎は私に本を読んでやった。 (庵 2012: 124 例文 (35b))
 (24) * 私は太郎にお金を貸してくれた。 (庵 2012: 124 例文 (36a))
 (25) * 外国人は私に道を教えてもらった。 (原田 2006: 211 例文 (35))

一方、中国語の授与補助動詞“V給”構文は、例文(26)(27)のように、主語と間接目的語には人称の制限が見られない。

- (26) 小王 买-给 我 一 张 火车票。
 (王さん 買う-与える 1SG 一 CL 乗車券)
 「王さんは一枚のチケットを買ってくれた」

- (27) 我 借-给 小张 一些 钱。
 (1SG 貸す-与える 張さん 少し お金)
 「私は張さんに少しお金を貸してあげた」

第2に、間接目的語が必須であるかどうかに関しては、日本語の授受補助動詞構文は例文(28)(29)のように、間接目的語が必須ではないのに対し、中国語の“V給”構文は、例文(30a)(31a)のように必須である。なお、例文(30c)(31c)のように、“給”を除いても文が成立する。

- (28) 祖母に教えてもらった歌を歌った。
 (29) 母が作ってくれた料理はおいしかった。

- (30) a. 我 唱 了 外婆 教-给 我 的 歌。
 (1SG 歌う 了 1 祖母 教える-与える 1SG GEN 歌)
 「私は祖母に教えてもらった歌を歌った」
 b. * 我唱了外婆教给的歌。
 c. 我 唱 了 外婆 教 的 歌。
 (1SG 歌う 了 1 祖母 教える GEN 歌)

「私は祖母から教わった歌を歌った」

- (31) a. 妈妈 做-给 我 的 饭 很 香。⁹
 (母 作る-与える 1SG GEN 料理 とても おいしい)
 「母が作ってくれた料理はとてもおいしかった」
- b. * 妈妈做给的饭很香。
- c. 妈妈 做 的 饭 很 香。
 (母 作る GEN 料理 とても おいしい)
 「母が作った料理はおいしい」

3.1 節の内容を[表 2]でまとめる。[表 2]は日中語の授受補助動詞構文において文法的特徴の相違点を示すものである。

[表 2] 日中語の授受補助動詞構文の文法的特徴の相違点

	日本語の授受補助動詞構文	中国語の授受補助動詞構文
人称制限	①V てあげる(やる)構文の主語が3人称の場合、成立しない ②V てくれる構文の主語が1人称の場合、成り立たない ③V てもらおう構文の間接目的語が1人称の場合、成立しない	なし
間接目的語	必須ではない	必須

3.2 日中語の授受補助動詞構文の用法

本節では、授与者の意図性、発話時点で授与者は自分がこれからの恩恵行為を知っているかどうか、授与者の恩恵行為は予測可能であるかどうかなどを巡って日中語の授受補助動詞構文の相違点を検討する。

まず、V てくれる構文と V てもらおう構文には未来を表す場合に違いがある。本稿では、授与者を聞き手と聞き手以外の第3者という2つのタイプに分ける。なお、堀口 (1987) の主張に基づいて、発話時点で授与者は自分がこれからの恩恵行為を知っている場合を、授与者有準備(以下の i, ii, iii)と呼ぶ。さらに、発話時点で授与者は自分がその

⁹ 例文 (31a) の他に、前置詞“给”を使って、“妈妈给我做的饭很香”「私のために母が作ってくれたご飯がおいしかった」という表現方法もある。

恩恵行為をするということを知らない場合を、授与者無準備(以下の iv)と呼ぶ。

授与者の意図性に関しては、本稿では堀口 (1987: 61、65) の主張に基づいて、以下の 4 つのタイプがある。

- i) 授与者は恩恵行為を行うために、積極的な意図性がある場合
- ii) 授与者は恩恵行為に対して、消極的な意図性がある場合
- iii) 授与者は自分がその恩恵行為をするように言われているが、授与者にはその意図性がなく、すなわちすることを期待されていることを知ってはいるがするつもりはない。
- iv) 被授与者などがやらせようとしているだけで、授与者は自分がその恩恵行為をするということさえ知らないという場合

例えば、授与者が聞き手以外の第 3 者の場合、授与者有準備の i は以下の例文 (32) の A1 であり、ii は A2 であり、iii は A3 と対応する。(例文の順番は A→B→A1、A→B→A2、A→B→A3 である)

(32) A 「会のいろいろな係はもう決まりましたか。」

B 「ええ。司会は山田さんがやってくれます。/司会は山田さんにやってもらいます。
これから二人でその打ち合わせをするところです。」

A1 「山田さん、張り切っていましたよ。」

A2 「たまには司会なんかやらずに、のんびり飲みたいよって言っていましたよ。」

A3 「あれ、断わるとか断わったとか言っていたみたいですけど。」

(以上の例文は堀口(1987: 64) により、下線は筆者による 一部改変)

続いて、授与者が第 3 者の場合を検討する。堀口 (1987: 62-63) では、(35) の空欄には (33) も (34) も入るが、(36) の空欄には (34) しか入らないと述べている。すなわち、(36) に入る V てもら構文は授与者無準備の場合を表すことができる一方で、入らない V てくれる構文は授与者無準備を表すことができない。

(33) 田中さんが私に雪子さんを紹介してくれます。 (堀口 1987: 61 例文 (3))

(34) 私は田中さんに雪子さんを紹介してもらいます。 (堀口 1987: 61 例文 (4))

(35) A 「_____。」

B 「田中さんが紹介すると言ったんですか。」

A 「ええ。あした三人で会うことになっています。」 (堀口 1987: 61 例文 (23))

(36) A 「_____。」

B「田中さんが紹介すると言ったんですか。」

A「田中さんにはまだお願いしていないのですが。」 (堀口 1987: 61 例文 (24))

これに対し、中国語では授与者有準備の場合、例文 (37) のように、“请・让・叫”という依頼や命令を表す構文を用い、了₁ 或いは了₁₊₂ で表現する。また、A1 の授受対象“小刘”はV₁と“给”の真ん中に置くか、A2 の“把”の後ろに置くかどちらも成立する。A2 は授与者有準備を表す場合、“请・让・叫”構文+“把”+“V给”+了₁₊₂ で表す。一方、A2 の“把”の後ろの“小刘”「劉さん」は聞き手Bにとって新情報である。A1 の新情報は「劉さんを紹介する」である。(例文の読む順番は A1→B→A、A2→B→A である)

(37) A1 我 {请・让・叫} 小王 介绍 (了) 小刘 给 我 了。

(1SG CAUS 王さん 紹介する (了₁) 劉さん 与える 1SG 了₂)

「私は王さんに劉さんを紹介してもらった」

A2 我 {请・让・叫} 小王 把 小刘 介绍-给 我 了。

(1SG CAUS 王さん PREP 劉さん 紹介する-与える 1SG 了₂)

「私は王さんに劉さんを私に紹介してもらった」

B 你 和 小王 说 了 吗?

(2SG PREP 王さん 言う 了₁ 助詞)

「王さんに言ったの」

A 说 过 了, 明天 我们 三 个 见面。

(言う 経験相の助詞 了₁₊₂ 明日 1PL 三 CL 会う)

「うん、言った。明日三人で会おう」

一方、例文 (38) のように、中国語では授与者無準備を表す場合、A1 のように、“想”或いは“要”をつける必要がある。(例文の読む順番は A1→B→A、A2→B→A である)

(38) A1 我 {想・要} {请・让・叫} 小王 把 小刘 介绍-给 我。

(1SG …したいと思う CAUS 王さん PREP 劉さん 紹介する-与える 1SG)

「王さんに劉さんを私に紹介してもらおうと思う」

A2 # 我 {请・让・叫} 小王 介绍 小刘 给 我。
 (1SG CAUS 王さん 紹介する 劉さん 与える 1SG)
 「私は王さんに劉さんを紹介してもらった」

B 你 和 小王 说 了 吗?
 (2SG PREP 王さん 言う 了 1 助詞))
 「王さんに言ったの」

A 还 没有。
 (まだ NEG)
 「まだです」

さらに、堀口 (1987: 63) では、終助詞「よ」には聞き手が知らないことを伝える働きがあると述べている。例えば、例文 (39) は授与者が第 3 者の場合、授与者有準備にしても聞き手が知らなければ「よ」はつけられる。例文 (40) に「きっと」と「よ」という話し手の確信をつけると成り立つ。なお、例文 (41) は「たぶん」と「よ」が付いて、話し手の推測を表すと文が成立する。一方、堀口 (1987) は V てもらう構文を分析していなかった。

- (39) 司会は山田さんがやってくれますよ。 (堀口 1987: 63 例文 (25))
 (40) 司会はきっと山田さんがやってくれますよ。 (堀口 1987: 65 例文 (29))
 (41) 司会はたぶん山田さんがやってくれますよ。 (堀口 1987: 65 例文 (30))

これに対し、中国語では、例文 (42) のように、授与者が第 3 者であり、授与者有準備の場合であれば、了 1+2 を付ける必要がある。そして、聞き手は知っているのか知らないのかということと無関係である。例文 (43) の“应该”「…するはず」、「会」 「…そうだ」を用いて、可能性や話し手の推測を表す。

(42) 我 {请・让・叫} 小王 做 经理 了。
 (1SG CAUS 王さん やる マネージャー 了 1+2)
 「私は王さんにマネージャーになってもらった」

(43) 小王 应该 会 给 我 做 经理 的。
 (王さん …するはず 可能 gei 1SG やる マネージャー 語気助詞)

「王さんはマネージャーをやってくれるはずだ」

次に、授与者は聞き手である場合を考察する。堀口 (1987: 61-63) では、例文 (46) の空欄には (44) も (45) も入るが、(47) の空欄には (45) しか入らない。よって、授与者である聞き手がその恩恵行為をするということを発話時点で初めて聞く場合(授与者無準備の場合)には、V てくれる構文は使えない。さらに、授与者有準備の場合は、V てくれる構文も V てもらう構文も両方とも成立すると指摘している。

このように、(46) の空欄に入る (44) の V てくれる構文と (45) の V てもらう構文は、授与者の動作実現が基本的に予測可能となり、すなわち授与者は「行く」ということが確定である。一方、(47) の空欄に入る (45) という V てもらう構文の場合、被授与者の動作実現は予測不可能であり、授与者が行くかどうか不確定である。

(44) 君が札幌支店へ行ってくれる。 (堀口 1987: 61 例文 (15))

(45) 君に札幌支店へ行てもらう。 (堀口 1987: 61 例文 (16))

(46) 佐藤君が広島支店で河野君が福岡支店。_____。これで全部決まりだね。
(堀口 1987: 61 例文 (19))

(47) 佐藤君が広島支店で河野君が福岡支店。_____。突然で申し訳ないんだが、
札幌に急に人が必要になったんでね。 (堀口 1987: 61 例文 (20))

これに対し、中国語では、授与者有準備の例文 (48) と 授与者無準備の (49) の空欄には (51) も (52) も入るが、(50) の“V 给”構文は非文である。V₁は“去”「行く」¹⁰のような「主体変化動詞」¹¹の場合、日本語の授受補助動詞構文は成立するのに対し、中国語の“V 给”構文は成り立たない。前置詞の“给”を用いて、(51) のような命令文で表す場合が多い。授与者である聞き手がその恩恵行為をするということを発話時点で初めて聞くかどうか無関係で、(51)、(52) のような文は成立する。すなわち、授与者の動作実現は予測可能か不可能か判断しにくい。

なお、日本語に対応する適切な中国語の表現は、(52) のような“请你”という形で表現する。木村 (1987: 60) では、「この“请”が所謂“敬辞”として慣用的に動詞の前または二人称代名詞“你”の前に添えられて勧めの表現や依頼の表現を丁寧化する」と指摘した。

(48) 小张去北京路店，小王去上海路店。_____。咱们说好了的。

「張さんは北京ロードの店で、王さんはロードの店だ。_____。約束したでしょ。」

¹⁰ 張孝忠 (1987) では、“V 给”構文の中で、V₁は主として他動詞、意志動詞であると述べている。

¹¹ 「主体変化動詞」という用語は工藤 (1995) を参照する。

(49) 小张去北京路店, 小王去上海路店。_____。不好意思, 这是突然决定的。
「張さんは北京ロードの店で、王さんはロードの店だ。_____。急に決まってすみません。」

(50) *你 去-给 我 南京路 店。
(2SG 行く-与える 1SG 南京ロード 店)
(意味: 南京ロードの店へ行ってくれ)

(51) 你 给 我 去 南京路 店!
(2SG gei 1SG 行く 南京ロード 店)
「南京ロードの店へ行ってくれ」

(52) 请 你 去 南京路 店。
(…してもらう 2SG 行く 南京ロード 店)
「南京ロードの店へ行ってください」

また、終助詞「よ」をつけた例文 (53)(54) のように、授与者は聞き手でありながら、授与者無準備の場合、V てくれる構文は非文で、V てもらおう構文は成り立つ。

(53) 来月から君に経理をやってもらおうよ。 (堀口 1987: 63 例文 (9))

(54) * 来月から君が経理をやってくれるよ。 (堀口 1987: 63 例文 (12))

一方、中国語の“V 给”構文の用法は、沈家煊 (1999: 98) は“惠予事物转移并到达某终点, 转移和达到是一个统一的过程”(授与物が移動して終点に到達し、移動と到達が1つの連続した過程である)と述べている。従って、“V 给”構文は、授与者有準備の場合しか存在しなく、例文 (55) も非文となる。意味上では、例文 (53) の V てもらおう構文に対応する中国語の表現は、例文 (56) の“请・让・叫”構文である。

(55) * 下个月 开始 你 做-给 我 经理 哦!
(来月 から 2SG やる-与える 1SG マネージャー 感嘆詞)
(意味: 来月からマネージャーになってもらえるね)

(56) 下个月 开始 {请・让・叫・*给} 你 做 经理 哦!
(来月 から CAUS 2SG やる マネージャー 感嘆詞)
「来月からマネージャーになってもらえるね」

3.2 節の内容を[表 3]でまとめる。[表 3]は日中語の授受補助動詞構文において意味的な特徴の相違点を示すものである。

[表 3] 日中語の授受補助動詞構文の意味的な特徴の相違点

	V てくれる構文		V てもらおう構文		対応する中国語の表現形式
授与者が第三者の場合	授与者有準備		授与者有準備 授与者無準備		授与者有準備：① “请・让・叫” 構文+了 1 或いは了 1+2 ② “请・让・叫” 構文+ “把” + “V 给” +了 1+2
					授与者無準備：“想” “要” を付け加える
授与者が聞き手の場合	授与者有準備	動作実現は予測可能	授与者有準備	予測可能	授与者有準備や授与者無準備と無関係で、授与者の動作実現も判断しにくい
			授与者無準備	予測不可能	

4 日中語の授受補助動詞構文の恩恵性

本節では、日本語の授受補助動詞構文の恩恵性を明らかにする。さらに、授与者が恩恵を施す意図性や働きかけ性¹²によって、日本語の授受補助動詞構文が恩恵、非恩恵や自己恩恵を表す場合を検討し、それぞれに対応する中国語の表現形式を論じる。

恩恵性に関与するのは主に授与者の意図性である。澤田 (2014: 43) によれば、次の例文 (57) は、授与者鈴木君が私のために（たとえば、私を勝たせてやるために）わざと転んだ場合には、鈴木君は恩恵を施す意図を持つ。一方、鈴木君は、うっかり転ぶなどして話し手に恩恵を施す意図はなかった解釈もあり得る。

益岡 (2017: 88) によれば、V てもらおう構文は授与者に対する働きかけの有無の違いにより、意味的には授与者に対する能動的な働きかけが関与する場合(使役型)と関与しない場合(受動型)に分かれる。さらに、例文 (58) の V てもらおう構文は使役型・受動型いずれの意味においても自然な解釈は得がたい。使役型として成立しにくいのは、語用論的に見て、うれし涙を浮かべるよう働きかけるという状況が想定しにくい。受動型としても成立しに

¹² 仁田 (1990: 372) では、「働きかけとは、命令や依頼といったあり方で、話し手が相手たる聞き手に自らの要求に沿った動きの実現を訴えかけ・働きかけるといった発話・伝達的な態度のあり方を表した伝達のムードである」と指摘している。さらに、山田 (2004) では、「テモラウ受益文が構造的に持つ受影者から動作主に対する何らかの働きかけのあり方を「働きかけ性」と呼ぶ」と述べている。本稿は仁田 (1990) と山田 (2004) の定義に従う。

くいのは、「その子」に恩恵を与えようという意志が認めがたいからである。

(57) (競走で)鈴木君が転んでくれた。 (澤田 2014: 43 例文 (71))

(58)? 私はその子にうれし涙を浮かべてもらった。 (益岡 2017: 88 例文 (27))

4.1 恩恵を表す授受補助動詞構文

本節では、働きかけ性の観点から、恩恵を表す授与補助動詞構文と受納補助動詞構文を考察し、さらに対応する中国語の表現形式を明らかにする。

第1に、授与補助動詞構文のVてくれる構文とVてあげる(やる)構文は恩恵を表す場合、被授与者は恩恵を受けることで、授与者の動作を恩恵的に捉えることができる。例えば、例文 (59)(60) のように、被授与者は恩恵行為の発生時点前に、授与者に依頼することではなく、授与者は能動的に恩恵行為をする。従って、授与者が恩恵を施す意図性は被授与者より強く、被授与者は授与者に対する働きかけも依頼もない。

(59) 上司に無理に飲まされて、先輩が代わりにお酒を飲んでくれた。

(60) いやあ、みなさん覚えていてくれてありがとう。 (『ラジコンマガジン』)

(61) 田中が鈴木にフランス語を教えてあげた。

恩恵を表すVてくれる構文に対応する中国語の表現形式は、(62a)(63a) の能動文で表す場合が多い。例文 (62b)(63b) は要求の意味を表す“请・让・叫”構文である。さらに、趙蓉俊子 (2020a) によれば、恩恵を表すVてあげる(やる)構文に対応する中国語は、“V给”構文や前置詞“给”を用いる構文である。

(62) a. 上司 強迫 我 喝 酒, 同事 替 我 喝 了。

(上司 無理強いする 1SG 飲む お酒 同僚 PREP 1SG 飲む 了 1+2)

「上司に無理に飲まされて、同僚が代わりにお酒を飲んでくれた」

b. 上司 強迫 我 喝 酒, 我 {请・让・叫} 同事 替 我 喝 了。

(上司 無理強いする 1SG 飲む お酒 1SG CAUS 同僚 PREP 1SG 飲む 了 1+2)

「上司に無理に飲まされて、同僚に依頼してお酒を飲んでもらった」

(63) a. 大家 还 记-着 我 的 事, 谢谢!

(みなさん まだ 覚える-CONT 1SG GEN こと 感謝する)

「みなさんは覚えていてくれて、ありがとう」

- b. 我 {请・让・叫} 大家 记-着 我 的 事, 谢谢!
 (1SG CAUS みなさん 覚える-CONT 1SG GEN こと 感謝する)
 (意味:みなさんは私のことを覚えてください!ありがとう)

なお、益岡 (2017: 89-90) では、例文 (64) は、「ようやく涼しくなったという事態を話し手が恩恵的なものと捉え」と主張し、「話し手の対事態評価」を表すと述べている。なお、例文 (64)(65) は授与者が無情物であるため、意図性がない。一方、中国語では、例文 (64)(65) に対応する表現形式は“V 给”構文ではなくて、例文 (68a)(69a)(70)(71) の能動文で表す場合が多い。なぜかという、池上 (1981) によれば、日本語は話者の視点に立った主観的な状況把握で状態や出来事を表現すると述べているが、中国語は出来事を客観的に表現する言語である。つまり、中国語は客観的で中立的な描写文で表す場合が多い。また、例文 (68b)(69b) のように、前置詞“给”を用いて表現することもできる。

(64) ようやく涼しくなってくれた。 (益岡 2017: 89 例文(14))

(65) 雨が降ってくれた。

(66) 四月には桜の花が咲いてくれる。 (堀口 1987: 60 例文(8))

(67) 食器は食卓にはなやかさを添えてくれる。 (堀口 1987: 60 例文(7))

(68) a. 终于 变 凉快 了。
 (ようやく なる 涼しい 了 1+2)
 「ようやく涼しくなった」

b. 终于 给 我 变 凉快 了。
 (ようやく PREF 1SG なる 涼しい 了 1+2)
 「ようやく涼しくなってくれた」

(69) a. 终于 下 雨 了。
 (ようやく 降る 雨 了 1+2)
 「ようやく雨が降った」

b. 终于 给 我 下 雨 了。
 (ようやく PREF 1SG 降る 雨 了 1+2)
 「ようやく雨が降ってくれた」

(70) 四月 櫻花 开 了。

(四月 桜 咲く 了 1+2)

「四月には桜の花が咲いた」

(71) 餐具 {为・给} 餐桌 增添 了 色彩。

(食器 PREP・gei 食卓 添える 了 1 彩り)

「食器は食卓にはなやかさを添えた」

第2に、受納補助動詞構文に関して益岡 (2017: 81) に基づき、例文 (72) は使役型 V てもらう構文であり、被授与者の意図性は授与者より強い。例文 (73) は受動型 V てもらう構文で、授与者の意図性は被授与者より強い。

(72) イチローはジローに頼んで梨を買ってもらった。

(73) イチローは思いがけずジローに梨を買ってもらった。

使役型 V てもらう構文に対応する中国語の表現形式は、例文 (74) の“请・让・叫”構文である。また、受動型 V てもらう構文に対応する形式は、例文 (75) の前置詞“给・替・为”「…のために」で表す場合が多く、 V_1 の種類によって“V 给”構文で表す場合もある。

(74) 我 {请・让・叫} 小刘 帮 我 写 了 作业。

(1SG CAUS 劉さん 手伝う 1SG 書く 了 1 宿題)

「劉さんに宿題をやってもらった」

(75) 小刘 {给・替・为} 我 写 了 作业。

(劉さん gei・PREP 1SG 書く 了 1 宿題)

「劉さんに宿題をやってもらった/劉さんは宿題をやってくれた」

4.2 非恩恵を表す授受補助動詞構文

日本語の授受補助動詞構文は、被授与者にとって出来事が恩恵的であることを表す場合が多いが、例文 (76) の非恩恵的な V てやる構文もある。非恩恵を表す授与補助動詞構文には、V てやる構文と V てくれる構文があるが、V てあげる構文は非恩恵を表さない。本節では、非恩恵を表す授与補助動詞構文と受納補助動詞構文を考察し、それぞれに対応する中国語の表現形式を明らかにする。

(76) ばかにした奴らをいつか見返してやりたい! (庵他 2001: 168 例文 (5))

第1に、授与補助動詞構文の非恩恵を表す場合に関して、森田 (2008: 132) によれば、V てやる構文は、「不利益の給与」(「怒鳴りつけてやった」「殺してやる」)、「自棄自虐・強い意志」(「自殺してやる」、「きっと合格してやる」)という用法がある。例えば、例文 (77)(78) のように、発話時点で授与者は被授与者に働きかけがなく、一種の「脅威表明」と呼ぶ。なお、被授与者の意図性は判断しにくく、特に授与者の意図性を表す。これに対し、中国語は助動詞“要”「…したい」を用いて、授与者の意図性を表す場合がある。

(77) あの野郎、一発、殴ってやる。 (庵他 2001: 168 例文(2))

(78) 彼の秘密をみんなにばらしてやった。 (部田 2011: 16 例文 (2))

(79) 我 要 杀 了 你。
(1SG …したい 殺す 了1 2SG)
「殺してやる」

(80) 我 要 死-给 你 看。
(1SG …したい 死ぬ-与える 2SG 見る)
「自殺して見せる」

なお、非恩恵を表すV てくれる構文に関して、森田 (2008: 132) では、「迷惑」(「偉いことをしてくれたよ」)と「不利益の給与」(「目にも見せてくれる」「(時代劇で)成敗してくれる」)の意味があると述べている。さらに、庵他 (2001: 170) によれば、例文 (81a) のように、「のだ」を伴って感慨を表現したり、聞き手に対する非難を表現したりすると指摘している。本稿は庵他 (2001: 170) に従って、V てくれる構文は非恩恵を表す場合、「非難」と呼ぶ。また、被授与者も授与者の意図性が表せない。

(81) a. なんてことをしてくれたんだ。 (庵他 2001: 170 例文(5))
b. おい、お前、いつてくれたな。

これに対応する中国語の表現形式は、例文 (82) の前置詞“给”を用いる構文や、例文 (83) の能動文である。

(82) 看看 你 给 我 干 的 好 事。
 (見てみる 2SG gei 1SG やる GEN いい こと)
 「いいことをしてくれたよ」

(83) 你 可 真 敢 说。
 (2SG まったく 本当 あえて…する 言う)
 「お前、よく言ってくれたな」

第2に、受納補助動詞構文の非恩恵を表す場合に関して、森田 (2008: 132) では、「迷惑」(「勝手にしてもらっちゃ迷惑だ」)の意味をもつと指摘している。また、日本語記述文法研究会 (2009: 129) では、非恩恵を表すVてもらう構文は、例文 (84) のように、「てもらっては困る」「てもらっては迷惑だ」など、「ては」を用いた条件節とともに用いられることが多いと述べている。本稿では、受納補助動詞構文の非恩恵を表す場合、例文 (84) のように、被授与者の意図性を表し、授与者は判断しにくい。なお、庵他 (2001: 171) によれば、例文 (85)(86) のように、過去にすることはできないと指摘している。

(84) そんなところで立ってもらっては困ります。
 (日本語記述文法研究会 2009: 129 例文 (5))

(85) * あんなところに突っ立ってもらって困った。

(86) あんなところに突っ立っていられて困った。

これに対し、中国語では、例文 (87) のように、授受補助動詞構文や前置詞“给”を用いる構文などで表さなく、接続詞“如果”「もし…ならば」を用いる復文で表現する場合が多い。

(87) 你 如果 站在 那儿, 我 会 很 麻烦 的。
 (2SG もし…ならば 立つ-R あそこ 1SG 可能 とても 迷惑 語気助詞)
 「あそこで立っててもらってはとても迷惑だ/あなたはもしあそこで立っていると、私は迷惑だ」

4.3 自己恩恵を表す授受補助動詞構文

V てあげる(やる)構文では、授与者自分で恩恵をもらうに働きかけることを表すものがあり、本稿では自己恩恵と呼ぶ。V てやる構文は自己恩恵を表す場合があるが、現代日本

語では V てあげる構文の容認度が高い。

例えば、例文 (88)(89) のように、身体部位が被授与者であるが、身体部位は恩恵を受ける側とはならない。「温めてあげる」、「揉み解してあげる」や「叩いてあげる」という動作によって、授与者或いは聞き手¹³の自分自身にとって好ましい変化をもたらすという意味合いが読み取れる。自己恩恵を表すこれに対応する中国語の形式は、例文 (90)(91) のような能動文である。

(88) 痛みがある部分を温めてあげて軽く揉み解してあげてください。

(趙蓉俊子 2020b: 110 例文(33b))

(89) 背中を軽くトントン叩いてあげるうちに落ち着くのがだった。

『星さん出とるで明日は天気』

(90) 烫烫 疼痛 的 部位 并 轻轻 揉搓。

(少し温める 痛む GEN 位置 また 軽く 揉む)

「痛んだ位置を少し温めて軽く揉む」

(91) 用 双手 轻 拍 背部 到 腰部。

(PREP 両手 軽く 叩く 背中 まで 腰)

「両手で背中から腰まで軽く叩く」

さらに、庵他 (2001: 168) によれば、(92) は条件を表す「ば」「たら」「と」の前件で V てあげる(やる)構文を用い、後件の出来事がよい方向へ向かうことを表す。これに対応する中国語の表現形式は、例文 (93)(94) のように、能動文や“把”構文で表す場合がある。

(92) ビーカーに入った液体を温めてやると反応が早く進みます。(庵他 2001: 168 例文(3))

(93) 如果 烧杯 中 的 液体 被 加热,

(…ならば ビーカー 中 GEN 液体 PASS 加熱する

反应 会 进行 得 更 快。

¹³ 部田 (2011: 27) では、「この用法では、特に話し手の行為に限定されているわけではなく、その行為をする者は全て同じ変化を得られることを表現している点で特徴的である」と述べている。本稿では部田 (2011) の説明に従う。

反応 可能 進む 動作の様態を表す補語 更に 早い
 「ビーカーに入った液体は温められると反応が早く進みます」

(94) 如果 把 烧杯 中 的 液体 加热,
 (…ならば 前置詞 ビーカー 中 GEN 液体 加熱する

反应 会 进行 得 更 快。
 反応 可能 進む 動作の様態を表す補語 更に 早い
 「ビーカーに入った液体を温めると反応が早く進みます」

一方、例文 (95) は「説明言語」の V てあげる構文であり、村田 (1994: 80) によれば、例文 (97) も誰かのために「塩をいれる」のではなく、ただ料理を作るために、鍋に塩を入れるだけのことである。これに対して、中国語は、例文 (96)(98) の“把”構文で表す場合が多い。

(95) 鮭は三枚におろし、骨を抜いてやります。(井島 1999: 32 例(1e))

(96) 把 三文鱼 切成 块, 去 骨。
 (PREP しゃけ 切る-R 塊 抜く 骨)
 「しゃけは角切りにして骨抜きにする」

(97) (料理番組で)お肉が煮えたらお塩をいれてあげる。(村田 1994: 80)

(98) 把 肉 煮沸 后, 加入 盐。
 (PREP お肉 煮立てる 後 入れる 塩)
 「お肉を煮立て、塩を入れる」

4.4 本節のまとめ

本節では、日中語の授受補助動詞構文の恩恵性を検討した。なお、授与者が恩恵を施す意図性や働きかけ性によって、日本語の授受補助動詞構文が恩恵、非恩恵と自己恩恵を表す場合を検討し、それぞれに対応する中国語の表現形式を論じた。本節の内容を[表 4]でまとめる。[表 4]は日中語の授受補助動詞構文の恩恵性と対応関係を示すものである。

[表 4] 日中語の授受補助動詞構文の恩恵性と対応関係

		授与者の意図性	対応中国語の表現形式
恩恵	授与補助動詞構文	授与者は恩恵を施す意図性が被授与者より強い	①V てあげる(やる)構文: “V 给” 構文や前置詞 “给” で表す ②V てくれる構文: 能動文で表す
	受納補助動詞構文	使役型: 被授与者の意図性が授与者より強い	“请・让・叫” 構文
		受動型: 授与者の意図性が被授与者より強い	前置詞 “给・替・为” 「…のために」
非恩恵	授与補助動詞構文	V てあげる(やる)構文: 被授与者の意図性は判断しにくく、特に授与者の意図性を表す	助動詞 “要” を用い、授与者の意図性を表す
		V てくれる構文: 被授与者も授与者の意図性が表せない	前置詞 “给” を用いる構文や能動文で表す
	受納補助動詞構文	被授与者の意図性を表し、授与者は判断しにくい	接続詞 “如果” 「もし…ならば」を用いる複文で表す
自己恩恵	V てあげる(やる)構文	身体部位が被授与者であるため、意図性がない	能動文や “把” 構文で表す場合が多い

5 日中語の授受補助動詞構文の対照とまとめ

本稿は、恩恵性をめぐって日中語の授受補助動詞構文の相違点を考察したものである。2 節では、まず主語に立つのは恩恵行為の授与者であるか被授与者であるかによって、日中語の授受補助動詞構文を授与補助動詞構文と受納補助動詞構文に分けた。そのうえで、3 節では日中両言語の授受補助動詞構文の文法的特徴と用法の相違点を考察した。文法的な特徴からいうと、日中語の授受補助動詞構文は、人称制限や間接目的語が必須であるかどうかという点において違ってくる。意味の観点から見れば、授与者の意図性、発話時点で授与者は自分がこれからの恩恵行為を知っているかどうか、授与者の恩恵行為は予測可能であるかどうかなどを巡って日中語の授受補助動詞構文の相違点を検討した。最後に、4 節では授与者が恩恵を施す意図性や働きかけ性によって、日本語の授受補助動詞構文が恩恵、非恩恵と自己恩恵を表す場合を検討し、それぞれに対応する中国語の表現形式を論じた。

出典

本稿において使用されている例文の中では、出典が明示されていない例文は筆者の作例である。コーパス資料として、次の1つを用いた。

BCCWJ 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』

略語

CAUS:使役マーカ―“让”“叫”“请”、CL:助数詞、CONT:進行、gei:前置詞の“给”、GEN:構造助詞“的”「の」、NEG :否定、PASS :受動マーカ―“被”、PREP:前置詞、R:中国語の結果補語、V:述語動詞、V₁:前項動詞、SG:単数、PL:複数、了₁:動詞の後に置き、動作行為の完成或いは実現を表す、了₂:事柄の完成や新しい事態の発生を確認する働きをする、了₁₊₂:“了₁”と“了₂”の役割を兼ね備えた働き、ある動作Vを行った状態に今なっているというような状況を表す

参考文献

日本語の参考文献

- 庵 功雄・高梨 信乃・中西 久実子・山田 敏弘 (2001) 『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク.
- 庵 功雄 (2012) 『新しい日本語学入門 ことばのしくみを考える 第2版』スリーエーネットワーク.
- 池上 嘉彦 (1981) 『「する」と「なる」の言語学—言語と文化のタイポロジーへの試論—』大修館書店.
- 井島 正博 (1999) 「魚は三枚におろしてあげます—<配慮・気配り>を表わすテヤル・テアゲル—」『日本語学』18(12).明治書院.32-34.
- 井上 優 (2011) 「日本語・韓国語・中国語の「動詞+授受動詞」」『日本語学』30(11).明治書院. 38-48.
- 亀井 孝・河野 六郎・千野 栄一 (1996) 『言語学大辞典 第6巻 術語編』三省堂.
- 木村 英樹 (1987) 「依頼表現の日中対照」『日本語学』(6)10.明治書院.58-66.
- 工藤 真由美 (1995) 『アスペクト・テンス体系とテキスト—現代日本語の時間の表現—』ひつじ書房.
- 興水 優・島田 亜美 (2009) 『中国語 わかる文法』大修館書店.
- 澤田 淳 (2014) 「日本語の授与動詞構文の構文パターンの類型化—他言語との比較対照と合わせて—」『言語研究』145. 27-60.
- 城田 俊 (1998) 『日本語形態論』ひつじ書房.

- 朱 茜 (2020) 『日本語と中国語における「動詞+動詞」型複合動詞と「動詞+動詞」型複
雑述語の対照』新潟大学博士論文.
- 杉村 博文 (2007) 「中国語授与構文のシンタクス」『大阪外国語大学論集』35:65-96.
- 趙 蓉俊子 (2020a) 『日中語における授受動詞・移動動詞の対照研究:補助動詞としての用
法を中心に』新潟大学修士論文.
- 趙 蓉俊子 (2020b) 「日中語の授受補助動詞構文・移動補助動詞構文の対照研究:恩恵性を
中心に」『現代社会文化研究』71:101-118.
- 部田 和美 (2011) 「テヤルの意味分析—非恩恵を表すとされるテヤルを中心に—」『言語
学論叢』(オンライン版)第4号(通巻30).16-29.
- 仁田 義雄 (1990) 「働きかけの表現をめぐって」佐藤 喜代治(編)『国語論究 2 文字・音
韻の研究』明治書院.369-406.
- 日本語記述文法研究会 (編) (2009) 『現代日本語文法2 第3部 格と構文 第4部 ヴォイス』
くろしお出版.
- 早津 恵美子 (2017) 「使役文にみられる恩恵授与性」『表現研究』(106)7-16.
- 早津 恵美子 (2019) 「日本語の授受文の表す恩恵授受性—使役文の表しうる恩恵授受性と
の関係—」藤代 節 (編) 『ユーラシア諸言語の多様性と動態 3: 言語の多様性と類型
と混成言語』1-19. ユーラシア言語研究コンソーシアム.
- 原田 登美 (2006) 「恩恵・利益を表す<授受表現>と<敬意表現>の関わり:特に「てくれる」
を中心として文法的側面と社会言語学的側面から見る」『言語と文化』(10)203-217.
- 日高 水穂 (2007) 『授与動詞の対照方言学的対照(ひつじ研究叢書<言語編>第48巻)』ひつ
じ書房.
- 堀口 純子 (1987) 「『~テクレル』と『~テモラウ』の互換性とムード的意味」『日本語学』
第6巻4号.明治書院.59-72.
- 益岡 隆志 (2001) 「日本語における授受動詞と恩恵性」『言語』30(5).26-32.
- 益岡 隆志 (2013) 『日本語構文意味論』くろしお出版.
- 益岡 隆志 (2017) 「日本語恩恵構文の意味の広がり」と構文の関係性」天野みどり・早瀬尚
子(編)『構文の意味と広がり』くろしお出版.79-98.
- 丸尾 誠 (2010) 『基礎から発展まで よくわかる中国語文法』アスク出版.
- 村田 美穂子 (1994) 「「やる・してやる」と「あげる・してあげる」」『国文学:解釈と鑑賞』
至文堂(編)59(7).77-84.
- 森田 良行 (2008) 『動詞・形容詞・副詞の事典』東京堂出版.
- 森本 順子 (1996) 『日本語の謎を探る』ちくま新書.
- 山田 敏弘 (2004) 『日本語のベネファクティブ—「てやる」「てくれる」「てもらう」の文
法—』明治書院.

山本 裕子 (2003) 「授受補助動詞の対人的機能について」『名古屋女子大学紀要 人文・社会編』(49). 269-283.

盧 濤 (2000) 『中国語における「空間動詞」の文法化研究—日本語と英語との関連で—』白帝社.

中国語の参考文献

邵 敬敏 (2009) 《从“V给”句式的类化看语义的决定性原则》(「“V给”構文の分類から見た語彙の決定的な原則」)《语言教学与研究》第6期.1-8.

沈 家煊 (1999) 《“在”字句和“给”字句》(「“在”構文と“给”構文について」)《中国语文》第2期.94-102.

張 国憲 (2005) 《双宾语结构式的语法化渠道与“元”句式语义》(『二重目的語構造の文法化及びメター構文の意味』)《汉语研究的类型学视角》北京语言大学出版社. 345-373.

張 孝忠 (1987) 《关于动词后“给”的用法》(「動詞の後ろにつく“给”について」)《逻辑与语言学习》第2期.31-33.